

第 22 回 Forest Nova ☆ 麻布大学 (第 42 号)

例えば「森」と聞いたとき、何をイメージするでしょうか。知床の原生林、里山の雑木林、アマゾンの熱帯雨林、それとも…。

人の手が入らず、過密した木に遮られて暗く、何の草も生えないスギの林。私たちが真っ先に思い浮かべるのは、日本の人工林かもしれません。林業が衰退したために放置され、荒廃した多くの森。Forest Nova☆は、そんな人工林のために学生にできることは? と考え、活動する学生団体です。

私たちは神奈川県にある相模湖周辺の森で、小さいながら自分たちで借りている 1ha の人工林の整備を行っています。まず自分たちが現場を知らなければ誰にも伝えられないと考え、私たちは自分で間伐し、道をつくり、木材を山から降ろし、イメージではない実際の森を見ることを心がけています(※間伐…混みすぎた木を伐って間引くこと)。

間伐した木は、相模湖の地域の人たちが、私たちの先輩が育て、引き継がれてきた森の木です。人工林の問題、国産材を使うことの大切さを伝えるために、木工のワークショップをイベントやお祭りで出展し、活用しています。しかし、私たちがワークショップで使う量はとても少なく、伐った木をすべて活かさずにいるのも現状です。一緒に有効活用の方法を考えてくださる方を募集中です!

木を伐り、それを売って国産材利用の啓発を行い、その利益をまた森林整備に使う。自分たちの森で、循環できるように取り組んでいます。けれど私たちは、最終的に森を守っていくのは地域の人々だと考えています。学生が 15 人集まったところで、莫大にある人工林をよくすることはできません。

地域の小学校には、地域の森がどんなところなのか、なぜ大切なのかを森に入って体験してもらっています。今年は、活動する地域の小学校と協力し、子どもたちが地域の森のために何ができるか考えて活動をする、という企画に取り組んでいます。また、毎年手伝わせていただいている地元のお祭りでは初めて出展させてもらえることになり、地域の方々との関わりも深まってきました。

「地域の子供や大人が、どんなことをすれば森とうまく付き合っていけるのか」。その方向性はまだまだ模索中です。けれど、子どもたちが地域の森に興味を持つ、地域の方に森に少しでも目を向けてもらう。そういうことから、まずは私たちと一緒にでも、何か行動を起こすことにつなげたいと考えています。

「森と人との共助共生社会を目指す」

最後になりましたが、私たちの活動理念です。人が暮らしていくためには木材が必要ですが、それを得るために森とどう付き合うのかをいつも考えさせられます。理念は壮大ですが、自分たちも森を知り、近くにいる人にそれを伝え、一緒に行動してみようよ! と足元から活動を広げていきたいと思っています。

■定例化活動

毎月、第 1・3 日曜日に行っています。参加はどなたでも大歓迎です! 気軽にご連絡ください。

ホームページ <http://forestnova.web.fc2.com/>